

たつきクリニック

# 矢谷達樹 院長

山手線新宿駅西出口から徒歩7分、大江戸線や西武新宿線にも最寄駅を持つ「たつきクリニック」は、気軽に入れる雰囲気のあるレディースクリニック。婦人科だけでなく、皮膚科や内科の診療も行っている。院内に一步入ると、かわいいぬいぐるみなどが置かれた待合室は、とてもアットホームな雰囲気だ。不妊治療などの際に男性が来院することも考え、診察室は左右に分割されている。院長の矢谷達樹先生は、長年婦人科医療に携わった経験を持つベテランのドクター。常に患者の気持ちや状況を考え、優しい表情で診療に応じてくれる。「経済的なことが理由でクリニックに通えないというようなことがないよう、なるべくリーズナブルな料金設定をしています」と、矢谷院長は語る。月経困難症や子宮筋腫・卵巣嚢腫などの治療のほか、しみやほくろの除去に訪れる患者も多く、日帰り手術にも対応している。そんな矢谷院長に、クリニックの魅力をじっくりと伺うことができた。  
(取材日 2013年8月8日)



## 患者の求めるものは何かを考え、できることは即実行

「医院の特徴を教えてくださいませんか？」

当院は若い方から高齢の方まで、どんな患者さんが多く来られますか？

なたでも気軽に来られるレディースクリニックです。常に患者さんサイドに立った診療をしており、いろいろな相談にも応じられますので、こんな相談をしていいのかわからないと迷われている方でも安心してお越しいただけます。診療科目は婦人科・皮膚科・内科で、予約していただければほとんどお任せすることなく診察ができます。忙しい方のために日帰り手術も行っており、軽度の子宮頸部異形成であれば、覚員のCO2レーザーを使って日帰り治療もできるんですよ。他院で手術と言われた場合も対応できるケースがありますので、ご相談いただければと思います。薬の処方方は院内で行く手間はあります。お支払いの際は自費診療だけでなく、保険診療にもカードが使えます。当たり前のような話ですが、保険診療のカード決済というのは、意外と個人病院ではやっていないんですよ。また、当院ではなるべく多くの方が診療を受けられるように、リーズナブルな価格設定にしています。ホームベーシなど料金と比較して、やはり当院をというところから来られるケースも多いですね。よくスタッフに「本当にこれでいいんですか？」と言われることがあるのですが(笑)。中にはおひとりでも子どもを育てている女性もいらっしゃいますから、どなたでも安心して治療を受けられるような価格設定が必要だと思っています。

「どんな患者さんが多く来られますか？」

比較的若い患者さんが多く、月経困難症や月経不順・子宮筋腫・卵巣嚢腫・子宮がんなどの症状で来られる方が多いですね。まずは診察をして体をチェックし、症状をわかりやすく説明します。その上で治療を行ったり、手術に至らないように経過をみることも多いですが、状況次第では近くの総合病院を紹介することもあります。これらの症状には、ホルモンの乱れが大きく関係しているんですよ。睡眠不足などの生活習慣もかなり影響しているんで、それらを改善することも大切です。若い方は婦人科の内診に抵抗がある場合も多いので、最初は問診だけで終わらせ、内診は次回以降にするケースもあります。二度と来たくないと思ってしまうのは本人のためにもなりませんから、内診したくないとおっしゃる時はお腹からエコーをあてて診察するなど、いろいろと工夫をしています。

「皮膚科や内科の診療もされているそうですね。」

はい、皮膚科に関してはしみやしわ・ほくろ・ニキビ跡・アトピー性皮膚炎などのお悩みで来られる方も多く、2台のレーザー治療器で治療を行っています。昨年11月から多汗症の治療が保険適用になり、当院では即対応しました。内科に関しては、風邪の諸症状や予防接種などのほかに、禁煙治療やプラセンタ療法、にんにく注射のために来られる方もいらっしゃいます。患者さんが求めているものは何かを考え、可能なことはして差し上げたいと常に思っています。患者さんは皆さんお忙しいので、小手術なども日帰りできるようにしています。

また、お子さんを連れて来られても、お母様の診療中はスタッフがフォローしますので、ご安心ください。帰られる時に小さなプレゼントも用意していますので、次回の来院時にはお子様も楽しみに来られるでしょう。

## 幼少の頃の入院体験が、医師をめざすきっかけに

「先生がドクターの道を選ばれたきっかけは？」

叔父が開業医をしていましたので、昔から医師の仕事は身近に感じていました。でも、私がドクターになるうと決めたきっかけを作ったのは、自分自身の入院体験ですね。5歳頃に急性腎炎にかかってしまい、親元から離れて1ヶ月も入院したのですが、そのときの記憶が今でも鮮明に残っています。当時は小児科の先生が本当に少なく、入院中に主治医の顔をほとんど見かけませんでした。「自分が大人になったら、医者にならなくて」という気持ちがあるのどこかにおいて、自然とこの道に進みました。

「クリニックを開院されたのは1999年なのですね。」

ええ、15年以上勤務医をしていましたので、開業医としては決して早いスタートではありませんでした。大学の医学部を卒業後、東京女子医科大学の産婦人科に8年間勤務、その後他の医院で勤務医を務めた後に当院を開業しました。勤務医時代は夜の当直があつて丸1日以上眠れないことも多く、本当に大変な日々でしたね。でも、おかげでさまざまな症例を診ることができました。それは



それで充実した日々だったのですが、やはり、自分の治療方針をそのまま貫きたいという気持ちが強くありました。薬を出すときなども、勤務医の場合は自分の考えだけで選べません。それなら自分でクリニックを始めてみよう」と思い、開業に踏み切りました。

「今までのドクター人生で、何か心に残るエピソードはありますか？」

東京女子医大の産婦人科に研修医として入局した頃の話は、いまだに忘れられません。全国でもトップレベルの教授に直々に指導を受けたので、本当に緊張しました。大学を出たので、教授は開口一番「おっしやっただけです。研修医といえども、何かミスをしたら訴えられますよ」と……。そのくらい医療の現場とは厳しいものだということ、徹底的にたたき込まれました。全国からあらゆる症状の患者さんが来られるので、教授に付いてさまざまな症例を

## 女性が一番魅力的になれるのは30代以降

「休日などは、何をしてお過ごしですか？」

映画が好きで、仕事が終わってからはよく観に行きます。大学時代は映画研究部に入っていました。私の母校である鳥取大学というのは、学生は勉強だけでなく趣味にも打ち込み、勉強と両立させることが大切だという考え方を持つ大学で、私も8ミリを持って歩き回っていましたね。例えば精神的に病む若い世代の葛藤を、いくつかのエピソードを入れて30分映画にまとめたので、7、8人しかいないクラブだったので、私も出演者のひとりでした(笑)。もちろん勉強は大変でしたが、あのとき趣味に打ち込んだ時間は本当に貴重でした。

「今後の展望を教えてくださいませんか？」

これからも西新宿の婦人科医のひとりとして、患者さんの気持ちに寄り添った診療を続けていきたいと思います。特に若い方は婦人科に行くことをためらっている方が多く、なるべく気軽に来院できる雰囲気を作りたいですね。価格の面でも常に努力し、新しく保険適用になった治療などはすぐに対応して、どなたでも気軽に診療を受けられるようにと考えています。今までの私の経験と知



「最後にドクターズファイル読者に向けて、メッセージをお願いします。」

女性は30代以降になると女性ホルモンが低下してくるため、「去年より今年が疲れやすい」と感じられる方が多いと思います。中には「もう歳だから」と思い込んでしまいがちですが、本当は30代からが女性として一番魅力的な年代なのですよ。人間の落ち着きがあり、常識もわきま、会話をしても楽しい……そんな素晴らしい年代だということを、ぜひ再確認していただきたいです。年齢とともにできるしみなどはある程度チェックして、もっと女性として輝いていただきたいです。薄いしみなどはレーザーで簡単に治すこともできますので、当院にお気軽にご相談ください。

# Doctor's File

ドクターズ・ファイル



たつきクリニック  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-14  
TEL: 03-5348-7074  
西武新宿駅 / 産婦人科 婦人科 内科 性感染症内科

ドクターズファイル で 検索